



大阪大学  
OSAKA UNIVERSITY



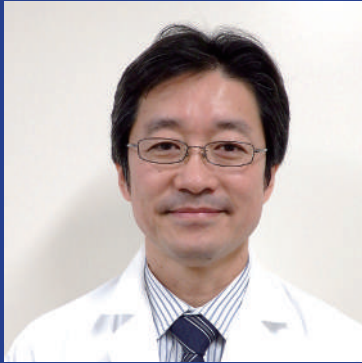
Vol.19  
2019年4月号

News  
Letter

おおきに健康

# 歯とお口から

大阪大学歯学部附属病院 広報誌 <http://hospital.dent.osaka-u.ac.jp/>



副病院長 山城 隆

新しい年度が始まる4月となりました。歯学部附属病院にも新たなスタッフや臨床医としての研鑽を積む研修歯科医が集まり、これから益々の活躍が期待されます。皆様もお気づきかと思いますが、最近、大阪のみならず日本を訪ねる外国人の方々、すでに在住の外国人の方々が増えています。2020年のオリンピックに向けてのカウントダウンが始まろうとしている現在、その数はさらに増加することが見込まれており、4000万人になると言われています。至るところで、国際化の波が日本にやってきました。

大阪大学歯学部附属病院では2015年に“国際歯科医療センター”を立ち上げました。国際歯科医療センターは外国人の患者様にも安心して、本院の高度かつ先進的な歯科医療を受けていただくことを支援すること、さらには当院で歯科の臨床を勉強したいと希望する外国人歯科医師を支援する目的で設置されました。統計を取り始めた2009年度と比べ、外国人の方の来院は10倍を超えており、その数は現在でも増えています。最近、院内表示に英語表記が加わったことにお気づきになった方もいらっしゃると思います。一方、歯科医師の名札の国旗のシールはご存知でしょうか？外国のデパートの店員のようなのですが、このシールは我々が何語で対応可能かを示すものです。大阪大学歯学部には留学中の外国人の応援も得て、現在100名強の歯科医師が英語、中国語、韓国語での対応が可能であるような体制を取っています。また、様々な言語に対応した歯科治療を説明するタブレットを開発し、その活用を進めています。さらに、欧米、アジアなど様々な国から外国人歯科医師や歯科大学生の研修を受け入れています。皆様が治療を受けられている時に、突然、英語でのやりとりがなされることを経験された方も多いかもしれませんが、是非ともご理解いただければ幸いです。このような院内での活動に加え、国際歯科医療センターはこれまで、台湾、香港、タイ、韓国において、現地にて国際シンポジウムを開催し、日本の歯科医療を積極的に海外に紹介するとともに、国際交流を深めています。もちろん、このような国際貢献や国際交流で得たノウハウは、最終的には皆様がより快適に歯科治療を受けることができるように、医療技術の向上と病院の環境整備に役立てていきます。2019年度もどうかご期待ください。

## 内面

- 特集1.  
「歯工連携プロジェクト」紹介
- 特集2.  
「サイエンスカフェ」開催
- 特集3.  
副病院長おすすめメニュー

お口の相談コーナー  
お口のマメ知識

## 裏面

- 2019年1~3月の統計情報
- 病院概要



大阪大学歯学部  
歯学部附属病院

## 特集1 「歯工連携プロジェクト」始動!

イノベティブ・デンティストリー戦略室 教授 十河 基文

来院されている患者さまにとって今はまだ直接的な影響がないことかもしれませんが、歯学部附属病院が先日行ったイベントをご紹介します。

安倍内閣が掲げる政策の1つに、「オールジャパンによる医療機器の開発」があります。そんな医療機器の開発で大事なことは「患者さんを診ている現場、いわゆる「臨床現場」からの発想だ」といわれています。3～4年前から医科の領域では臨床現場からのモノ作りとして「医工連携」が盛んに行われはじまりましたが、大阪大学歯学部(附属病院ならびに歯学研究科)も医工連携ならぬ「歯工連携」の取り組みをはじめました。

その第一歩として、先日2019年2月1日(金)にキックオフのイベントを開催しました。午前中には、大阪のモノづくりを代表する自治体の「東大阪市」「八尾市」の各市長にお越し頂き、歯工連携の調印式が行なわれました。



午後は歯学部附属病院長、歯学研究科長による阪大歯学部の自己紹介からはじまり、別途提携した「堺市」を含めた3市によるパネルディスカッションが行われ

ました。その後、目玉の1つとして阪大歯学部附属病院の歯科医師側から「臨床現場で欲しいもの(臨床ニーズ)」の発表を行いました。



また夕方には場所を移動して、街のモノ作り企業の皆様方にイベントのもう1つの目玉である「阪大歯学部附属病院・院内見学」にご参加頂き、「歯科でこんなモノを使っている。」と説明しました。



最終的には患者さまのためになる歯科モノ作りの「歯工連携」はこれからが本番です。

## 特集2

### 気軽におしゃべりサイエンス♪ Science café@大阪大学歯学部附属病院が、開催されました。

大阪大学21世紀懐徳堂・大阪大学歯学部附属病院・大阪大学大学院歯学研究科が共催するScience café@大阪大学歯学部附属病院が歯学部附属病院1階のCAFÉ de CRIÉで開催されました。このサイエンスカフェは、「大阪大学で行われている、最先端の多様な研究について知ってほしい」「地域の方が、気軽に研究者と交流できる場を大阪大学の中に作りたい」という思いから生まれており、「気軽におしゃべり」がコンセプトとなっています。

2月28日(木)には、「むし歯

治療最前線 削らないむし歯治療とは」をテーマに林美加子副院長が担当しました。最新のむし歯治療「早期発見・長期管理」について、また、口の健康を保つための方法についても分かりやすく紹介されました。

会場では、集まった約30人の参加者が、飲み物や焼き菓子を楽しみながら副院長の話に耳を傾けました。後半の質問タイムでは、参加者からたくさんの質問もあり大変有意義な時間となりました。

詳しい内容については…

21世紀懐徳堂



## 特集3 古郷副院長おすすめメニュー

2月14日に病院食でご飯、カニクリームコロッケ、ポイル野菜、サラダ、オニオンスープ、チョコババロアを提供しました。普段はポテトコロッケを提供していますが、今回はクリームコロッケにしました。

カニクリームコロッケは、じゃがいもを加えることにより、揚げている最中に爆発して、ホワイトソースが飛び出さないような工夫をしました。また、その日はバレンタインデーなので、チョコレートのババロアになりました。

「サクサクした食感で中身がクリーミーなカニクリームコロッケ」はコロッケが大好きな古郷副院長もおすすめのメニューです。

「ここの病院の食事はたいへん美味しい」と患者さんから言い続けていただけるように栄養管理室一同、新しいメニューの導入に日々努力していきたいと考えています。

また、参考としてコロッケの語源・由来を載せてみました。

#### コロッケの語源・由来について

コロッケの語源はフランス語の「クロケット(パリパリ食べる)」が変化したものと言われています。現在でもクロケットはフランス料理の前菜として登場します。このフランス料理のクロケット(クリームコロッケ)を日本人の好みに合うポテトコロッケに作り変えたものがルーツとも言われています。また、コロッケが日本に入ったのは明治初期頃で、明治から大正にかけて家庭に普及したと伝えられています。

(栄養管理室)

献立	
ご飯	サラダ
カニクリームコロッケ	オニオンスープ
ポイル野菜	チョコババロア



## 「舌がんのステージ」

口腔外科2(修復系) 科長 鷓澤 成一

## 「舌にしこりができて心配です。どうすればよいのでしょうか？」

放射線科 助教 中谷 温紀



お口の  
マメ知識

最近、著名人がステージⅣの舌がんであったことが、注目を集めました。それでは、舌がんのステージはどのように決まっているのでしょうか?また、ステージⅣの舌がんとはどのような状態なのでしょうか?舌がんのステージは国際的に決まっています。ステージはT因子(舌の腫瘍の大きさ・厚み)、N因子(首のリンパ節に転移の有無・状態)、およびM因子(肺などの遠隔臓器への転移の有無)により決定されます。ステージⅠ、Ⅱは、大きさが4cm以下で、首のリンパ節に転移がない症例であり、このような早期がんは、きちっとした治療を行えば80～90%程度の確率で完治します。一方、ステージⅢは、転移はないが大きさが

さらに大きくなったもの、あるいは、首に小さな転移リンパ節が1個だけある症例です。さらに、ステージⅣは、ステージⅢよりもさらに大きながん、あるいは、首に複数個の転移リンパ節があるものです。したがって、舌がんの大きさが小さくても、首に複数個の転移リンパ節が認められる場合、ステージⅣになります。そのような場合は、口の中の腫瘍は小さいので、あまり症状がでなかつたりすることもあります。ステージⅢ、Ⅳは、進行がんであり、多くは首のリンパ節に転移のある症例です。治療成績も早期がんと比較するとずっと低くなります。しかし、舌がんは、ステージⅣで発見されることが多いですが、他のがんと比較し

てステージⅣの治療成績が良いことが特徴であります。しっかりとした治療を行えば、完治を目指す可能性が高い種類のがんなのです。



所患リンパ節 (N)	N0	N1	N2	N3
T1	Stage I	Stage II	Stage III	Stage IV
T2				
T3				
T4				

上記は全て遠隔転移なし(N10)  
遠隔転移あり(N11)は全てStage IV



お口の相談  
コーナー

最近、ある女優さんがご自身のブログで舌がんになったことを発表され、舌がんに対する世間の関心も高まりました。「自分がもし同じ立場になったら」と心配された方も多いのではないのでしょうか。今回、皆さんに是非知って置いて頂きたいことは、がんに対する治療法の1つに放射線治療があり、全てのがんに対して有効というわけではないけれど、条件がピッタリ合う場合には切らないで治すことも可能な理想的な治療法である、ということです。

放射線治療には体外から、がん

に放射線を当てる外照射法と、がんの近くに放射線を出す金属を置

く組織内照射法があります。口の中にできるがんの多くは放射線が当たると死滅してしましますが、がん以外の組織も放射線が当たると強い炎症などが生じ、これを副作用と呼んでいます。副作用が小さいのは、余分なところにあまり放射線が当たらない組織内照射法の方

です。また、歯科医師の立場から全く新しい副作用軽減装置を考案し、度々メディアでも紹介されました。がんの治療方針は早期がんと進行がんでは大きく異なります。疑いをお持ちの場合は、当院にお越し頂き、早い目に検査をお受けになることをお勧めします。

口唇・口腔・中咽頭がんの小線源治療を受けられる施設

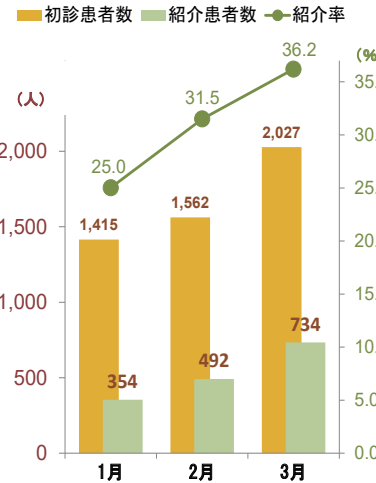


# 1月～3月患者数等統計

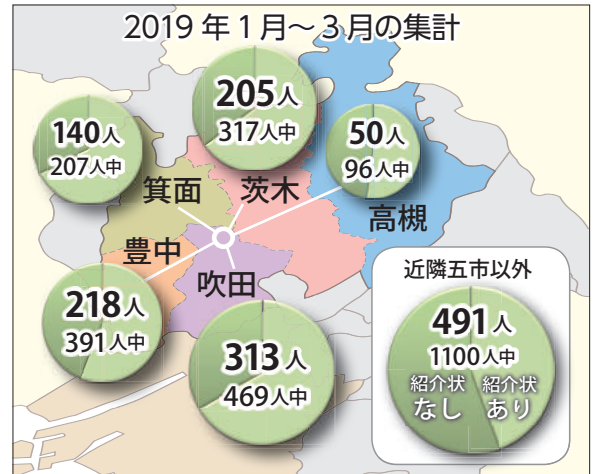
## 外来患者数・入院患者数



## 初診患者数と紹介患者数比率

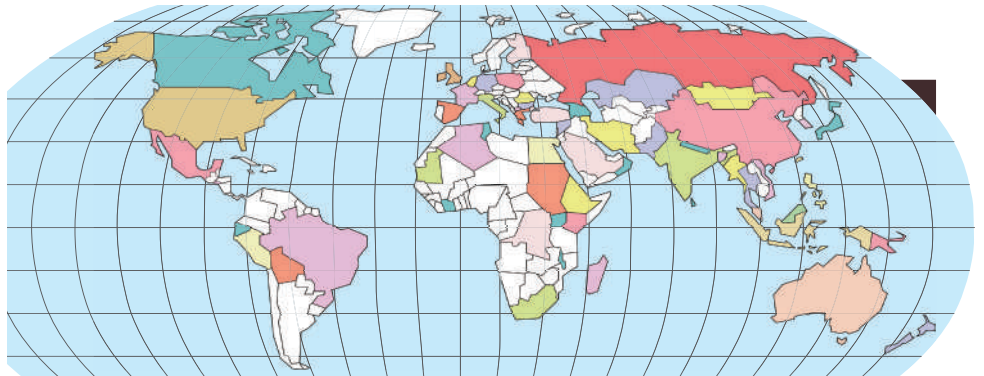
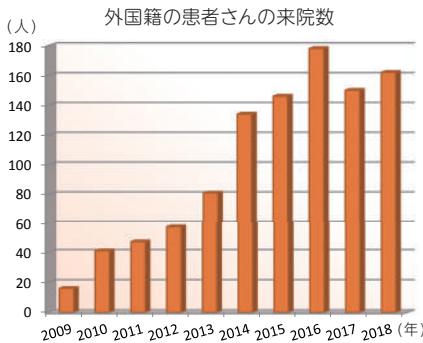


## 近隣五市の新来患者に占める紹介状持参患者数



## 外国籍の患者さんの来院数 (外来) と主な国籍の分布図

【主な国名】…中華人民共和国、インド、インドネシア、タイ、韓国、フィリピン、マレーシア、ロシア、アメリカ合衆国、トルコ、イギリス、スペイン等



◆抽出条件◆ 2009年度から2019年3月31日までに大阪大学歯学部附属病院を受診した外国籍の外来患者さんの人数を集計しました。

## 病院概要

診療日：月～金 休診日：土日祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

受付時間：【初診受付】8時30分～11時30分（初めて受診の方、紹介無し可）  
【再診受付】8時30分～15時00分（原則として全科予約制）

住所：〒565-0871 吹田市山田丘1番8号

電話番号：（代表）06-6879-5111（時間外）06-6879-2848

標榜診療科：歯科、矯正歯科、歯科口腔外科、小児歯科

### 診療内容

口腔衛生指導、虫歯治療、歯周病治療、歯周再生治療、差し歯、入れ歯、インプラント治療、口腔癌治療、口唇口蓋裂治療、障害者歯科治療、摂食・嚥下、スピーチ治療、スポーツ歯科、口臭外来、ドライマウス外来、睡眠時無呼吸、歯の外傷治療等

電話による病気や症状に対する相談には再診料がかかります。ご了承ください。

夜間休日の緊急診療につきましては、あらかじめお電話(06-6879-2848)のうえ、お越してください。

入院患者さんへのご面会時間は、12時から19時となっております。

## 病院へのアクセス

[http://hospital.dent.osaka-u.ac.jp/hospital/hospital\\_000009.html](http://hospital.dent.osaka-u.ac.jp/hospital/hospital_000009.html)

歯学部附属病院にお車で越すの際は、西門（歯学部門）よりお越してください。なお、平日夜10時以降、土、日および祝日は、千里門よりお越してください。

**看護師・歯科衛生士  
募集中！**

—お問合せ—

歯学研究科総務課人事係  
06-6879-2834 まで

